

## 2016年3月期 第2四半期決算説明会 質疑応答要旨

Q： 中国では今期売上高の下方修正があったが、顧客の動向と足元の稼働状況について教えてほしい。

A： 中国には安徽省の合肥工場と広東省の広州工場の2拠点がある。合肥工場の主要顧客向けの部品は現地の民族系自動車メーカーに販売されている。民族系自動車メーカーで在庫がたまっている様子であり、アールスティの受注が回復するには時間がかかると予想している。

広州工場の主要顧客では、売れ筋車種とそうでない車種の販売動向に明暗が分かれている。広州工場では売れ筋ではない車種の部品納入割合が高くなっている。売れ筋の部品は中国やメキシコで生産が足りていないような状況であるが、そうでない部品は落ち込みが大きく影響が出ている。

稼働状況としては、鑄造機数台がアイドル状態である。今年度の今のところの受注は前年比数%の生産減となっており、その分稼働が空いている状況である。

Q： 北米の状況について、来年上期に回復したいとのご説明であったが、かつて北米は収益水準が高かった。どのくらいの期間で過去の水準へ回復しようとしているか。

A： アメリカではプラス要因とマイナス要因が想定される。プラス要因は、生産性の改善が進んでいるものの、まだ他の拠点と比較して生産ロスが多く、改善の余地があることである。今期中は厳しいが、来期の上期にかけては改善を期待したい。

一方、マイナス要因は販売車種のトレンド変化が起きていることである。このトレンド変化の影響が来年後半から再来年上期に出てくるため、現在営業努力を進めているところである。無くなっていく部品のリプレースを行っている。

Q： 長期的な視点での受注動向や新規案件の貢献が期待できるかどうかを教えてください。

A： 今後3年間の受注状況はおおよその見当がついている。日本では、一部に国内生産回帰の動きがあるものの、大きな波になるとは考えられない。消費税増税のマイナス要因もあることから、自動車全需の拡大は期待できない見通しである。北米では、日系自動車メーカーのプラス成長の期待が持てる一方で、来年から再来年にかけて販売車種のト

レンド変化の影響があるためやや厳しいという見方であるが、北米セグメント全体としてはプラス成長の期待を持っている。アジアでは、中国で減税による販売増が期待される。インドではこれまで緩やかなペースで成長をしており、来年から再来年にかけても成長するものと予想している。このように、日本以外の海外では基本的に成長すると考えている。海外では、大型の鋳造機を所有しているので、投資や技術が必要となる分野に注力していく。グローバルの自動車生産台数が増加していくことに伴い成長を実現させていく。

Q： 中国向けの設備投資が今期は計画より 40 億円のマイナス修正となった。中国向けの中長期的な投資は減る可能性があるか、見通しを教えてください。

A： 現状の受注状況では現有設備で余裕がある。加工設備についても、マシニングセンターの余剰があるため、まずはそれらを活用することが先である。ただ、投資は今後どのような受注をとるか次第なので、明確に回答することができない。